

令和 8 年 6 月 2 4 日

報道機関各位

熊 本 大 学

熊大ワクワク連続講義 “令和 8 年度 夏季プログラム” 受講生募集！

熊本大学では、高校生等生徒の皆さんが将来の夢を育み、希望にあふれて学びを進められるよう願いを込めて、令和 8 年度も“熊大ワクワク連続講義”を開講します。

この講義では、熊本大学を代表する教員が、自らの研究を始めたきっかけや研究の内容、抱いている夢について、熱意を込めて、わかりやすく語ります。また、それぞれの研究と高校での学びとのつながりについても説明します。きっと、思いがけない発見に驚き、知的好奇心が刺激され、心はワクワクする体験となることでしょう。

この講義を通して、学問・研究の魅力に触れ、学ぶ意欲が高まり、将来の夢を大きく描いて、その実現に向かって踏み出してくれることを心より願っています。

本講義について、広く一般の方へお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

【日 時】令和 8 年 7 月 25 日（土）、26 日（日）

1 時限 10:30～12:00、2 時限 13:00～14:30、3 時限 14:45～16:15

【場 所】熊本大学黒髪北キャンパス全学教育棟（熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号）

【対 象】高校生等、高校教員

【参 加 費】無料

【開講科目】別紙チラシをご確認ください。

【申込方法】以下、申込フォームより希望する講義を選択し、お申込みください。

<https://forms.gle/8Sw5jQiDzLvP2sDR6>

【申込締切】令和 8 年 7 月 13 日（月）

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

https://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/koudairenkei/wakuwaku_kougi/R8wakuwaku-kaki-event

【お問い合わせ先】

熊本大学学生支援部入試課

担当：今田、中島

TEL：096-342-2712



【令和8年度 夏季プログラム受講生募集案内】

《開催場所》 熊本大学会場 黒髪北キャンパス（全学教育棟）

《令和8年度 夏季プログラム時間割》

7月25日 (土)	1限 10:30-12:00	1-1	気象病をみる ～こころとからだと空模様～ 倉内祐樹 薬学部 准教授
		1-2	ジェンダー不平等社会を斜めから見る—ジェンダーのコミュニケーション学入門 平野順也 共創学環 教授
	2限 13:00-14:30	2-1	つくられる「魔女」とシェイクスピア 松岡浩史 文学部 准教授
		2-2	生成AIは言葉を理解しているのか — 生成AIを支える数学 — 久保田真一郎 情報融合学環 准教授
	3限 14:45-16:15	3	会社は従業員をクビにできる？できない？ 中内 哲 法学部 教授
7月26日 (日)	1限 10:30-12:00	1-1	なぜシャボン玉は割れるのか？—実験と数理モデルで解き明かす— 古場 一 理学部 教授
		1-2	がんとともに生きる力を支える—患者の力を引き出す生活マネジメント— 国府浩子 医学部保健学科 教授
	2限 13:00-14:30	2-1	「がん」という病気をミクロの世界から考察してみる 菰原義弘 医学部医学科 教授
		2-2	見えない世界を電気とコンピュータでのぞいてみる 長名保範 工学部・情報融合学環 准教授
	3限 14:45-16:15	3-1	心と体のはなし 坂本将基 教育学部 教授
		3-2	脳・神経の病気と治療法の進歩 植田光晴 医学部医学科 教授

申込は
 コチラ
 →→→

QR
コード



URL

<https://forms.gle/vF74njKQLARoW8w3A>

【問合せ先】 熊本大学入試課（次世代教育推進（高大連携）担当）

TEL : 096-342-2712 E-mail : gag-koda@jimu.kumamoto-u.ac.jp

申込締め切り: 7月13日(月)

《 講義内容 7/25(土) 》

1-1

7月25日(土) 10:30-12:00 【薬学部】倉内 祐樹 先生

テーマ：気象病をみる ～こころとからだと空模様～

内 容： “天気が悪いとなんとなく調子が良くない”と感じたことはありませんか？近年、気象変化によって痛みやうつ症状、不安症状が出現・悪化する『気象病』が知られるようになってきました。しかし意外なことに、刻々と気象が変動している最中に、私たちの体の中で何が起きているのかはよくわかっていません。この講義では、薬学部で私たちに取り組んでいる気象病研究の最前線を紹介します。

講師紹介： 全国トップクラスの抹茶生産量を誇る、愛知県西尾市出身。他者との関係で成り立つ社会適応メカニズムや、こころとからだの状態を専門に研究しています。さまざまな生体反応をリアルタイムに測定する手法や、ヒトと実験動物のギャップを埋めるモデル系の開発などを通して、ストレスが原因となる社会問題の解決を目指しています。

関連教科・キーワード： 生物、物理、化学、地学、数学、倫理、保健

1-2

7月25日(土) 10:30-12:00 【共創学環】平野 順也 先生

テーマ：ジェンダー不平等社会を斜めから見るージェンダーのコミュニケーション学入門

内 容： 「ジェンダー平等」が謳われる社会ですが、未だに差別的な考え、表現、イメージに溢れています。たとえば「レディース・セット」はあるのに、「ジェントルマンス・セット」が存在しないのは何故？サッカー日本代表も、男子は武士の「サムライ」ブルーなのに、女子は花の「なでしこ」ジャパンなのは どうして？本授業では、隠れるように存在するいくつかの事例に着目し、それらの問題、理由などを一緒に考えてみましょう。

講師紹介： 兵庫県赤穂市出身。趣味：音楽、映画、小説。コミュニケーション（特にレトリック）研究に従事。コミュニケーションは「ことば」の学問です。「ことば」は、社会問題を解決に導くこともできれば、悪用されると問題を生み出す場合もあります。「ことば」は人を感動させることもあれば、傷つけることもできます。“天邪鬼”な「ことば」に興味があるのです。

関連教科・キーワード： コミュニケーション、ジェンダー、レトリック

2-1

7月25日(土) 13:00-14:30 【文学部】松岡 浩史 先生

テーマ：つくられる「魔女」とシェイクスピア

内 容： 15世紀の末、時のローマ教皇インノケンティウス8世の教皇勅書により、ヨーロッパのキリスト教社会は「魔女(witch)」の概念を大転換させました。「魔女」は教会法上どのような存在であり、神学の上でどのような能力を持つとされていたのか？今日の娯楽産業でもしばしば登場する魔女のイメージはどのようなプロセスを経て形成されてきたのか、その源流と文学作品への影響を講義します。

講師紹介： 初期近代イギリスの演劇（特にシェイクスピア）とその社会・文化的背景（特にルネサンス魔術）を研究しています。大学生時代に1年間ロンドンに遊学。勉強はせずお芝居ばかり観ていました。拗（こじ）らせて現在に至ります。家族が寝静まった夜中に静かに魔術書（コルネリウス・アグリッパの本など）を読むと心が安らぎます。

関連教科・キーワード： 英文学、世界史、英語

《 講義内容 7/25(土) 》

2-2

7月25日(土) 13:00-14:30 【情報融合学環】 久保田 真一郎 先生

テーマ：生成AIは言葉を理解しているのか — 生成AIを支える数学 —

内 容：生成AIは言葉を理解しているのでしょうか。どんな計算をしているのでしょうか。本講義では、生成AIを題材に、言葉を数字として扱う仕組みを体験的に考えます。生成AIの裏側にあるデータサイエンスや数学の考え方に触れながら、大学で学ぶ数学やAI技術とのつながりを紹介します。

講師紹介：情報通信技術を用いて学習活動そのものやそのプロセスを効率良くし、効果的にするための仕組みを研究しています。学習活動やそのプロセス全体をデータとして可視化し、数理的に分析・評価することで、データ駆動型で一歩先を行く、質の高い学習体験の実現を目指しています。

関連教科・キーワード：数学・情報・物理

3

7月25日(土) 14:45-16:15 【法学部】 中内 哲 先生

テーマ：会社は従業員をクビにできる?できない?

内 容：皆さんのご家族が出勤したら上司から突然、「君は、明日からもう会社へ来なくていい。クビだ」と告げられた!テレビドラマや映画の1シーンではなく、現実には起こりうる事態なんです。①そもそも会社の上司(法律上の「使用者」)は、ご家族(法律上は「労働者」)の人生を踏みこじる上記の一言、口にできるの?②かりに告げることができれば、言われた労働者は、泣き寝入るしかないの?③かりに対抗できるとしたら、何を・どうすれば?を解説します。

講師紹介：57年の人生のうち、九州島内で過ごす時間は35年を超えましたが、生まれは広島県尾道市、最も多感な高校・大学時代は大阪と神戸で暮らしました。父の頻繁な転勤のせいで「労働法学」へ踏み込んだのか?うーん、それだけではないです。労使紛争を解決するための特別な行政機関の仕事にも携わっています(中央労働委員会西日本区域地方調整委員(公益委員))。

関連教科・キーワード：公共、労働者と使用者、権利と義務、濫用禁止

2日目(7/26(日))は
次ページへ →

《 講義内容 7/26(日) 》

1-1

7月26日(日) 10:30-12:00 【理学部】 古場 一 先生

テーマ：なぜシャボン玉は割れるのか？—実験と数理モデルで解き明かす—

内 容： 空中に浮かぶシャボン玉や針金に張られたシャボン膜は、時間がたつとやがて割れてしまう。また、シャボン膜を張った針金の輪に息を吹きかけると、丸いシャボン玉ができることもある。では、シャボン玉やシャボン膜はなぜ割れるのだろうか。本講義では、簡単な実験とある物理量に着目した理論的考察を通してその原因を探る。また、その考察に必要な初等的な数理モデリングの考え方についても紹介する。

講師紹介： 大学では純粋数学を学び、大学院では、現象を数式で解明する数理科学に興味を持ち、大気や海洋の流れを支配する地球流体方程式を研究しました。現在は、シャボン玉の膜の中で起こる流れを研究しています。大気や海からシャボン玉まで、研究対象は変わりましたが、結局は数学です。最近ではAIの活用に興味を持ち、試行錯誤しています。

関連教科・キーワード： 数学・物理(数理モデリング)

1-2

7月26日(日) 10:30-12:00 【医学部 保健学科】 国府 浩子 先生

テーマ：がんとともに生きる力を支える—患者の力を引き出す生活マネジメント—

内 容： 日本では2人に1人ががんに罹患するといわれ、がんは患者だけでなく家族にも大きな影響を及ぼします。治療法や支援体制は進歩していますが、治療に伴う症状や身体機能の変化を完全に防ぐことは困難です。そのため、患者・家族が生活を維持しながら、自らの力を活かして主体的に療養を続けられるよう支援することが重要となります。患者が本来備えている力に着目し、その力を強化する生活マネジメント支援についてご紹介します。

講師紹介： がんになった患者さんやご家族が安心して生活できるよう支援する『がん看護』を専門にしています。特に乳がん患者さんに関する研究を続けています。大学では看護学生に成人期の患者さんへの看護を担当し、大学院ではがん看護研究を行う学生を指導しています。また、がん看護のスペシャリストとして活躍する看護師の育成にも取り組んでいます。

関連教科・キーワード： 保健・生物・道徳・心理・倫理

2-1

7月26日(日) 13:00-14:30 【医学部 医学科】 菰原 義弘 先生

テーマ：「がん」という病気をミクロの世界から考察してみる

内 容： 日本人の2人に1人は生涯のうちに一度は「がん」に罹患するといわれています。「がん」は死に至る病気ではありますが、実際には多くの患者さんが治療で治っています。演者は、「病理医」という顕微鏡で病気を診る仕事に関わっています。その一端を紹介しながら、「がん」という病気を考察してみましょう。「がん」の予防や治療法なども分かりやすく紹介します。

講師紹介： 熊本大学医学部医学科を卒業して、「病理医」という医師になりました。同時に、大学に勤務して、学生の講義や実習を担当する傍ら、がんと免疫細胞に注目した研究も行っています。

関連教科・キーワード： 生物学

《 講義内容 7/26(日) 》

2-2

7月26日(日) 13:00-14:30 【工学部/情報融合学環】長名 保範 先生

テーマ： 見えない世界を電気とコンピュータでのぞいてみる

内 容： 海の水がどう流れているかとか、この世界を形作っている「物質」とはそもそも何でできているのかとか、私たちは毎日見ているようで実はなにも見ていなかったり、知っているようで何も知らずに過ごしています。そういったさまざまな現象を測ったり、実験をして分析するための道具を作って、まだ誰も見たことのない世界をのぞいてみる研究をしている、物理と数学が苦手な研究者の話します。

講師紹介： コンピュータに興味があって大学に入り、4年生から速いコンピュータを作る研究をしていたら途中から生命科学に興味が出てきて、細胞をまるごとシミュレーションしたい、とか、納豆はなんでネバネバするのか、みたいな研究をしているうちに研究者になりました。人生は有限なので知りたいことは全部首を突っ込んで行こう、と思っています。

関連教科・キーワード： 数学、物理（高校でやるものとはだいぶ違う）

3-1

7月26日(日) 14:45-16:15 【教育学部】坂本 将基 先生

テーマ： 心と体のはなし

内 容： 「お腹がすくとイライラする」「背筋を伸ばすと少し前向きな気分になる」—そんな経験はありませんか？ 私たちの心と体は密接につながっています。本講義では、簡単な演習を通して脳の働きを体感します。さらに、体の状態によって考え方や感じ方が変わることを示した研究を紹介し、「心と体がつくる認知の不思議」に迫ります。私たちが世界をどのように感じ、理解しているのかを一緒に探ってみましょう。

講師紹介： 中学生から大学生までバレーボールに打ち込み、その経験から人の体の動きに興味をもちました。大学時代に人の体や脳の不思議さに魅了され、研究者の道へ。現在は、脳がどのように体を動かしているのか、また運動が上達するときに脳で何が起きているのかを研究しています。

関連教科・キーワード： 保健体育、生物

3-2

7月26日(日) 14:45-16:15 【医学部 医学科】植田 光晴 先生

テーマ： 脳・神経の病気と治療法の進歩

内 容： 脳・神経の病気になると、手足が動かせない、歩けない、会話ができない、記憶が悪くなる、食事がのみこめないなど、普段の生活ができなくなります。病気が生じるメカニズムは様々ですので、的確に病気を診断し、適切な治療を行うことが重要です。いくつかの代表的な病気に関して解説するとともに、最新の医学の進歩により治療法が発展していることをお話します。

講師紹介： 熊本大学医学部を卒業後、脳神経内科医として多くの患者さんの診療にあたり、米国インディアナ大学への研究留学を経て、タンパク質が臓器にたまる難病「アミロイドーシス」の研究を続けてきました。治療が難しいとされてきたこの病気の新しい治療薬の開発にも参加し、現在は教授として診療・研究・若手医師の教育に力を注いでいます。

関連教科・キーワード： 医学、生物、化学